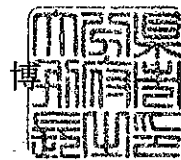




別都計第4-0106号
平成19年5月7日

国土交通省 道路局長 殿

別府市長
浜田



平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のあった「中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について」について下記のとおり回答します。

記

(1) 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

ア、子ども、高齢者、障がいのある方など誰もが安心して暮らせるまちづくりの整備。

- ・交通事故発生率の高いエリアを対象に総合的な交通安全対策事業の推進。(あんしん歩行エリア整備事業)
- ・交通バリアフリー法の重点整備地区では、駅前広場、特定経路・補助経路などのバリアフリー化事業の整備促進。

イ、通勤・通学、買い物など日常の暮らしを支える生活道路の整備。

- ・通勤・通学、買い物など市民生活に最も密着した市道は、2,439路線、631km(平成17年)走っているが、泉都特有の昔ながらの街並みのなかで幅員狭小道路が多く、改良率も41.8%と低い水準となっている。また、本市の都市計画道路は、計画決定延長87,274m、改良済延長33,958m、改良率38.9%と(平成18年3月)低い水準である。事業のスピードアップを図る。

ウ、市内各地域及び周辺市町村との有機的なネットワークの形成。

- ・別府挾間線、別府山香線、別府庄内線の事業のスピードアップを図る。

エ、市街地へ入る車を分散させる道路の整備。

- ・スマートICの整備促進。

(2) 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと。

ア、事業毎の評価を行う。

- ・まちづくり交付金事業（別府駅周辺地区、鉄輪地区）で、目標値の達成状況をチェックしていく。

イ、沿道の住民やNPOなどが道路の管理にもっと参画できる取組みを行う。

- ・道路のアダプト制度の充実。

ウ、事業の実施に当たって、早い段階から市民の考えや意見が十分に反映されるような取組みを行う。

- ・ワークショップ、PIなどを通じて、市民の考えや意見を計画に反映させる。

(3) その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見。

ア、東九州自動車道の早期完成。

イ、別大国道の全線6車線化の早期完成。

ウ、別府挾間線の早期完成

エ、主要な観光ルートとなるような幹線道路について、緑化による景観整備の促進。